

所報 研究所だより

教育・しまんと

令和3年度
NO. 9

発行 四万十市教育研究所

四万十市田野川乙 1240 番地
Tel/Fax (0880) 32-1020
ふれあい学級(0880) 32-1022

★本年もよろしくお祈いします。

新しい年は、昨年とは異なり、温かく穏やかな幕開けとなりました。新型コロナウイルス感染症は、昨年の後半からは全国的に一定の落ち着きを見せ、当たり前の日常が少しずつ戻りつつありました。本県の感染者数も50日ほど感染者数0が続いていました。

ただ、ここにきて、年末・年始等での人流増加、さらには新たな「オミクロン株」の影響もあって、全国的に感染者数が増加傾向にあります。「第6波」に入ったともいわれています。本県においても同様で、今後の感染拡大防止に向けて、一人ひとりが危機意識をもって、日々の対策に取り組んでいきましょう。

さて、各学校におかれましては、一年の締めくくりの学期を迎えました。小学6年生にとっては、6年間のまとめの学期であり、中学校生活に向けてのジャンプの時期でもあります。

また、中学校3年生にとっては、義務教育9年間の締めくくりの学期であると同時に、「進路決定」の重要な時期でもあります。

児童・生徒一人ひとりが、それぞれの学年のまとめをしっかりと行い、明るい希望をもって、何事にも「トラ(寅)イ」してほしいと思います。

さらに、それぞれの学校におかれては、本年度の教育活動の検証・集約及び次年度へ向けての青写真を描いておられることと思います。

成果の継承と課題克服に向けて、全教職員一丸となり「ワンチーム・チーム学校」で、取り組んでいきましょう。

今年は「寅年(壬寅:みずのえとら)」です。この寅は、「乳虎または母虎」のように、家族思いの優しいトラと言われているようです。

年男・年女の方がおられる中で、目に留まっ

た記事から、少し触れさせていただきたいと思います。

寅年生まれの人については、虎のイメージどおり、「正義感が強く、たとえ逆境にあっても立ち向かう強さを持っているのが特徴」と言われています。

職場等ではチームプレーよりも個人プレーを好むようですが、持ち前のチャレンジ精神と完璧主義の性格から、失敗を恐れることなく成果につなげられるようです。

また、自分に注目が集まっているとエネルギーを発揮しやすくなりますが、ときに自慢話が過ぎる傾向も持っているそうです。

寅年の人は男女ともにロマンチストで情熱的な性格なので、恋愛面では理想を押し付けてしまうことも。そんな情熱的で豪快なイメージがある寅年の人ですが、実は繊細で傷つきやすい性格も持ち合わせているようです。

周囲の人が寅年の人の性格や特徴を理解していれば、そっと手を差し伸べて助けることができるかもしれません……。

どうでしょうか？ 当てはまることはあったでしょうか？ あくまでも一般的傾向だと思しますので……。

★過去にあった寅年の出来事

◆1962年（昭和37年）

「ザ・ビートルズ」レコードデビュー。
首都高速1号線開通。
東京タワー完成。

◆1974年（昭和49年）

小野田元少尉が日本に帰国。
気象庁「アメダス」運用開始。
佐藤栄作元首相がノーベル平和賞を受賞。

◆1986年（昭和61年）

ダイアナ妃が来日。
上野動物園で国内初のジャイアントパンダの繁殖に成功、「トントン」が誕生。
NASAのスペースシャトル「チャレンジャー号」が発射直後に爆発事故発生。
世界初、レンズ付きフィルムカメラ「写ルンでず」発売。

◆1998年（平成10年）

長野（冬季）オリンピック開催。
サッカーのFIFAワールドカップに日本が初出場。
日本初の火星探査機「のぞみ」打ち上げ成功。

◆2010年（平成22年）

惑星探査機「はやぶさ」が帰還。
北朝鮮で金正恩氏が後継者に指名。
尖閣諸島沖で中国漁船衝突事故発生。

★まとめ

過去の寅年には、国内初や世界初、初出場等いわゆる「初もの」や新たな施設や技術が完成したり動き出したりといった出来事が多くありました。

令和になって初めての寅年、2022年はどんな年になるのでしょうか。

2019年後半から2021年にかけては、新型コロナウイルス・パンデミックによって世界中が多くの困難に見舞われました。

ただ、そんな中から数々の教訓を得て、立ち向かう力が生まれてきたことも事実です。1年延期になっていた「東京オリンピック・パラリンピック」は、様々な意見がある中ではありましたが、開催にこぎつけ、結果として多くの感動や感激を与えることができました。

今後も新型コロナウイルスの影響は続いていくことが想定されますが、国のコロナ対策に関して、上の方での批判合戦なるものは、もうそろそろやめていただき、このような国難の時こそ、皆で知恵を出し合い、どうすれば国民の命や財産を守れるのか、「できることの理由探し」に力を入れていただきたいと思います。

◆本年度の振り返りと来年度へ向けて

【授業づくり講座】等について

教科サークルIの代替として、この2年間試行的に実施した「授業づくり講座」及び市内で行われる研修会の中から希望する研修を選択し参加する。といった取り組みに関しては、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響で、中止や延期、縮小等、何かと厳しい状況は見られましたが、各学校では、参加体制に関して創意工夫を図っていただき、積極的な参加を得るとともに、多数の肯定的評価もいただきました。

来年度の授業づくり講座や市内における研究発表会等の開催状況は、現段階では見通せませんが、この2年間の流れを継続する方向で進めていきたいと考えています。

各学校におかれましては、授業時数の確保、学校行事の精選・縮小等々、遅滞ない教育活動の推進に向けて、創意工夫を図る中で、積極的な公開授業及び講座への参加をいただきました。ご協力にあらためて感謝申し上げます。

また、新たに中学校の技能教科部会を設定し、研修の場を確保した件につきましても、開催日時や研修内容等に苦慮された部分があったこととは思いますが、それぞれの技能教科

部会で計画を立てていただき、研修を深めることができました。あらためてご協力に感謝申し上げます。来年度は、中学校の学校再編もありますので、様々な角度からご意見をいただき継続・改善の方向を確認したいと思っております。

【 サークルⅡ 夏季研修会 】について

本年度も、これまで開催していたサークルⅡ（教科外）の研究大会を休止し、夏季研修会に一本化しました。

この取り組みに関しても、肯定的な意見を多くいただきました。

これは、各サークルにおいて、年度当初に部会を持ち協議・検討し、計画立案していただいたことで、どのサークルにおきましても予定通り開催することができ、研修を深めたことが大きな要因ではないかと考えます。

ただ、一部のサークルにおいては、研修の中心的内容を「今日的課題」に焦点化し、**会員数のバランスを図る**ことも必要ではないか。というご意見もいただいたことから、研究所として「サークル連絡協議会」及び「運営委員会」等の場で提案し協議を重ね、年度末には一定の方向性を示したいと考えております。